

気管竜骨/気管カリーナ

気管分岐部の内面で左右の

主気管支を隔てる稜状の高まり

がある。この高まりを気管

竜骨という。気管竜骨の粘膜

感覚はとても敏感である。

刺激されると激しい咳を起こす。

気管支の分岐

気管支は2分岐を繰り返しつつ次第に細くなり、肺胞に至る。左右1本ずつの主気管支は肺葉に対応し右3本、左2本の葉気管支に分かれる。肺葉の中に形成された肺区域に対応し、右10本、左8本の区域気管支に分かれる。さらに分岐を繰り返し細くなる。径2 mm以下、壁に軟骨がなくなると細気管支となる。壁に軟骨と平滑筋がなくなると肺胞管、肺胞嚢となる。

気管と気管支の構造

気管と気管支の粘膜上皮は_____上皮である。

気管と気管支の基本的な構造は似ているが、
気管支は肺の末梢に行くに従い次第に名称を
変え、壁を構成する要素が変化する。

変化する要素のポイントは、

軟骨は区域気管支まで

平滑筋は呼吸細気管支までとなっている。

気管支の分岐

①主気管支



②葉気管支



③区域気管支



④細気管支



⑤終末細気管支



⑥呼吸細気管支



⑦肺胞管



⑧肺胞囊

軟骨 +

平滑筋 +

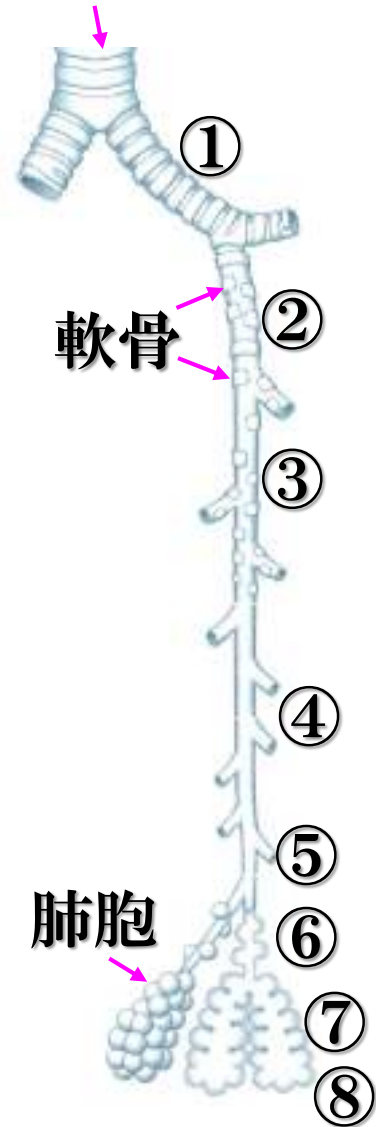
軟骨 -

平滑筋 +

軟骨 -

平滑筋 -

気管



気管支の分岐

分岐回数

- 1
- 2
- 3
- ...
- 8
- 9
- ...
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23

気管

主気管支

葉気管支

区域気管支
とその枝

細気管支

終末細気管支

呼吸細気管支

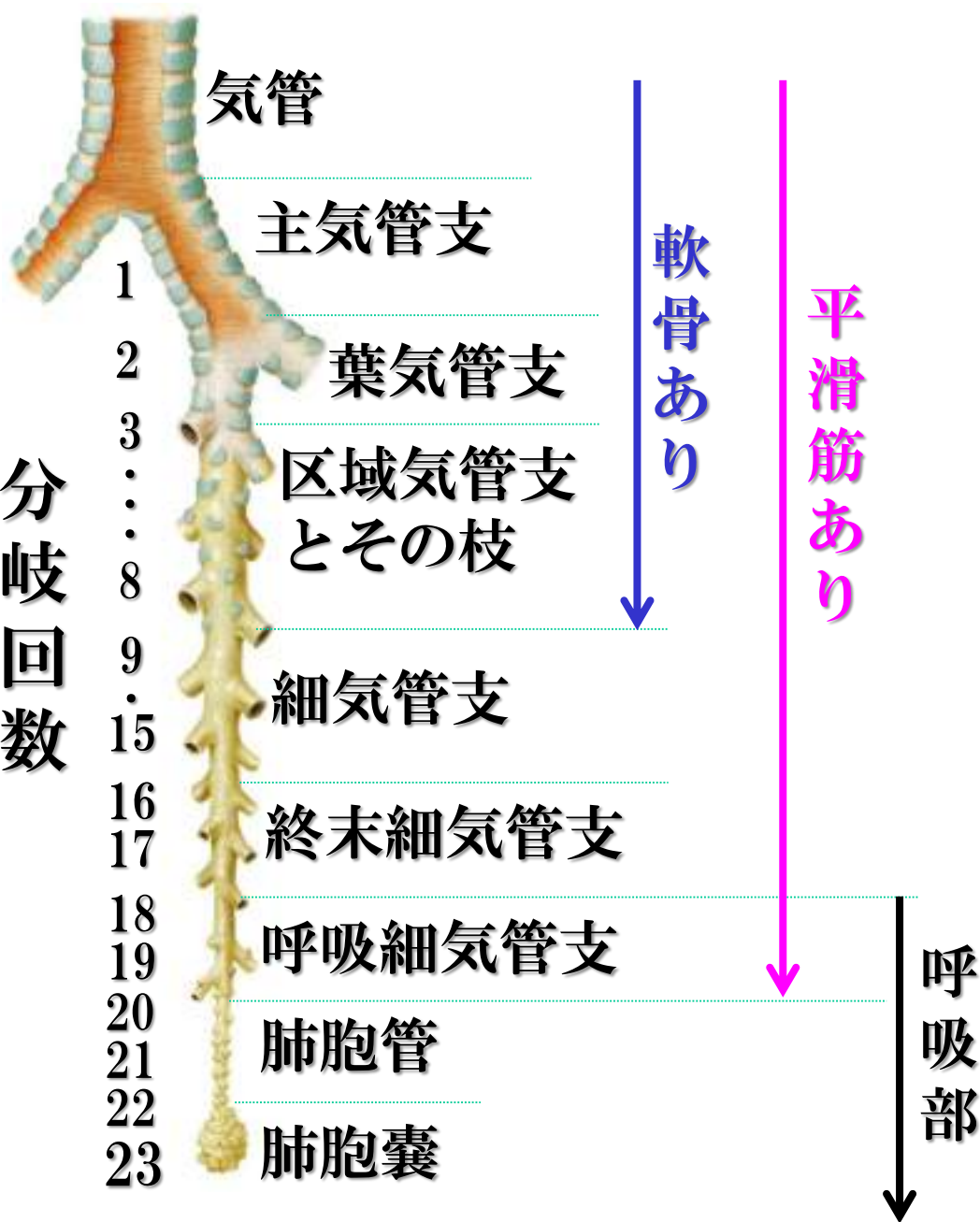
肺胞管

肺胞囊

軟骨あり

平滑筋あり

呼吸部



気管と気管支の組織構造

気管と気管支の粘膜上皮は主に **細胞**と
 細胞からなる多列線毛上皮である。

線毛の運動は咽頭・喉頭の方に向かっていて
るので、異物を体の外へ出すことができる。

杯細胞は粘液を分泌し、空気と一緒に入り
込んでくるホコリなどのゴミは粘液に
吸い取られ、**痰**となって吐き出される。